

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：26301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24660054

研究課題名(和文) 保健師の施策化能力の基礎となる「起業家マインド」育成プログラムの試案作成

研究課題名(英文) Creating a Draft Plan for Facilitating "Entre/Intrapreneurship" Development Program as Competence Base of Nurses to Make Public Health Policy

研究代表者

田中 美延里 (TANAKA, Minori)

愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授

研究者番号：00264903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、保健師教育における「起業家マインド」育成プログラムの開発に向けた試案を作成することである。国内で法人化または独立採算の事業形態で活動する保健師3名への継続的インタビューを実施した。起業家マインドが育まれるプロセスに着目し、国の政策等と照らし合わせて記述したストーリーは、ニーズからの施策化のナラティブ教材として、現任教育におけるOJT強化のためのプログラムに活用できる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to create a draft plan to develop a program for "Entre/Intrapreneurship" in public health nurse education. To facilitate the mission, we conducted continuous interviews to three nurses working in a range of nursing services such as domestic institutions and financially-independent healthcare business settings. During the interviews, we focused on the process that entre/intrapreneurship was nurtured, and completed the personal and professional stories referring to the national policies and other background information. This can be utilized as narrative learning materials to identify the social needs and to lead to competence to make public health policy, as well as contribute to initiating professionalization, expertise and experience in in-service education for enhancing OJT.

研究分野：地域看護学

キーワード：公衆衛生看護学 保健師 施策化 起業

1. 研究開始当初の背景

我が国の保健師活動は、農村の凶作や社会不安から「社会事業」の一つとして自然に発生したもので、今日の地方公共団体に働く保健師の原型は、昭和12年の旧保健所法制定、20年の保健婦規則改正により法的に整備されたものである。平成6年の地域保健法制定以降、保健師が施策に参画する必要性が提言され、平成15年の「地域における保健師の保健活動について」では保健師が総合的な健康施策の展開に積極的に関わる必要があることが明記され、施策化能力への期待が高まっている。

保健師の施策化の方向性は、国や都道府県の「政策に基づく施策化」と日常業務の中で把握した「ニーズからの施策化」に大別されている。保健師は住民に直接的サービスを提供する中でニーズを把握し、それらを施策に反映できる専門職であり、「政策や社会資源を創出する能力」は今特に強化が必要な行政保健師の専門能力の一つである。しかしながら、施策化能力を高める取り組みは事業化に焦点を当てたモデル形成が緒に就いたばかりであり、縦割り行政の枠を超えた柔軟な発想力や創造力を視野に入れた教育方法は未だ開発されていない。

一方、保健師の活動領域をみると、就業場所の多くは依然として市町村・保健所であるが、コミュニティビジネスへの参入や開業保健師として新しい公共性を生み出す活動によって、ヘルスプロモーションの推進に貢献する保健師がみられている。コミュニティビジネスとは地域の抱える課題や住民のニーズを住民が主体となってビジネスの手法を用いて解決する取り組みであり、地域を変革したいという「志」、起業家精神が原点にある。

2. 研究の目的

本研究は、近年コミュニティビジネスで注目される「起業家マインド」を、住民ニーズを施策に反映させる保健師の専門能力の基礎として位置づけ、保健師教育における「起業家マインド」育成プログラムの開発に向けた試案を作成することを目的とする。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、以下のように段階的に研究を行った。

(1)文献検討：「保健師の施策化」「保健師の起業」に関して、文献データベースの検索システム等を用いて文献検討を行った。

(2)活動事例の収集：公表資料からコミュニティビジネスへの参入や独立開業を果たした保健師の活動事例を把握するため、新聞記事・インターネット検索および関係団体からの情報収集を行った。

(3)開業保健師へのインタビュー調査計画の立案・実施

(4)開業保健師へのインタビュー調査まとめ

(5)保健師教育における「起業家マインド」育成プログラムの検討

4. 研究成果

(1)文献検討

「保健師の施策化」「保健師の起業」に関して文献検討を行った結果、「保健師の施策化」については「政策形成能力」、「保健師の起業」については「ソーシャルビジネス」という概念の重要性が見出された。保健師の施策化能力評価尺度が開発されており、施策化能力を高める取り組みとしては主に中堅期保健師を対象としてOff-JTとOJTの連動を促す現任教育プログラムがみられた。

日本の開業保健師9名を対象に起業動機・起業準備・現在の活動を明らかにした研究¹⁾の公表を受けて、開業保健師への調査目的・方法について検討した。保健師教育において「起業家マインド」の育成を目指すためには、起業した保健師の職業観や専門能力の獲得過程を捉えることが重要である。活動については、保健師が既存の行政サービスをふまえて、地域に埋もれているどのような課題を解決するために事業を起こしたか、一連のプロセスとして捉え、活動拠点の有無だけでなく、活動エリアや対象とするコミュニティにも着目する必要がある。

(2)活動事例の収集

「開業」「起業」「ビジネス」「保健師」等をキーワードに用いた新聞記事検索、論文データベース検索、インターネット検索により、開業保健師・起業家保健師に関する情報収集を行った結果、事業内容が把握できた活動事例の多くが既に商業誌の特集等で紹介されていたため、開業保健師の交流の場に関する情報収集を行った。2012(平成24)年9月に開かれた第1回開業保健師の集いのレポート²⁾によると、主催者が「法人格を持ち仕事をしている保健師の実数は全国で50人くらい」と述べており、開業保健師の全体数は把握できていない現状にあった。

2013(平成25)年2月には一般社団法人日本開業保健師協会が設立され、開業保健師の組織化がなされた。同年3月に開かれた第2回の集いに参加し、開業保健師の活動について情報収集を行った。さらに、学術集会や職能団体の研修会で紹介された起業事例を追加した。同年5月時点で事業内容が把握できたのは28事例で、そのほとんどがNPO法人、株式会社、個人事業主であった。これらの事業内容は、事業所の特定保健指導やメンタルヘルスなどの産業保健分野、妊娠・出産・育児支援などの母子保健分野、認知症高齢者や障害児のデイサービスなどの障害福祉分野、その他人材育成やまちづくりなど、多岐に渡っていた。自己採血による健診や育児休暇から職場復帰する女性への支援など、既存の枠組みを超えた柔軟な発想による事業展開がみられた。開業年から特定保健指導

開始やメンタルヘルス指針策定など、法制度の影響がみられることから、政策の動向をふまえて開業保健師の活動を捉える必要性を確認できた。

活動事例収集の際には「開業看護師」「開業ナース」として活動している看護職の中に保健師免許取得者がみられた。健康課題の複雑多様化や看護サービスの社会的認知の高まりなどを背景に、看護職全体の起業が増加している可能性がある。

(3)開業保健師へのインタビュー調査計画の立案・実施

調査目的

開業保健師のライフストーリーから「起業家マインド」が育まれるプロセスを明らかにすることを目的とした。

対象の選定

文献検討と活動事例の収集状況により、調査対象の条件を「国内で法人化または独立採算の事業形態で活動している保健師」とし、活動分野が多様になるよう意図的に抽出した。

データ収集方法

インタビューの前に研究対象者の活動現場の視察を行った。事業については、事業形態、活動拠点・エリア、対象コミュニティ、設立年、ビジョンと主な業務内容、スタッフ構成を、研究対象者個人の背景については、性別、年齢、起業前の職歴、教育背景を収集した。

事前に政策の動向を含む活動年表の記入と活動関連資料の持参を依頼し、それらを用いた半構面面接を対象者1人につき2~3回実施した。2回目以降は解釈の確認を含めた。インタビュー時間は1回約2時間程度で、場所は事務所や自宅など、対象者の都合に合わせて行った。

インタビュー項目は、起業動機と準備について、幼少期から進路選択までの出来事、看護基礎教育を受けた時期の出来事、就職してから起業を目指すまでの出来事、「起業家マインド」育成に関する自由意見である。インタビューは許可を得てICレコーダーに録音し逐語記録を作成した。

データ分析方法

逐語記録から、「起業家マインド」が育まれたプロセスを個別に生の言葉を用いて記述し、「起業家マインド」に関連する要因を分析した後、対象者間の共通性について検討した。分析段階では逐語記録の読み返しや録音内容の聞き返しを行い、内容の取り違えがないように努めた。

倫理的配慮

研究対象者に、研究の目的と方法、研究参加・不参加の自由、同意撤回書提出による途中辞退の自由、プライバシーの保護、研究成果の公表方法、研究に関する問い合わせ方法を書面および口頭で説明し、同意書への署名を得てから研究を開始した。愛媛県立医療技

術大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(4)開業保健師へのインタビュー調査まとめ

対象者の概要

インタビューに協力が得られた対象者3名は全員50代の女性で、行政保健師の実務経験を有していた。

Aさん：50代前半、女性。市の保健師として約十年間活動後に起業。主な事業は産後の女性支援。関西の都市に活動拠点を置き、県内を中心に活動している。

Bさん：50代前半、女性。市の保健師として二十数年活動後に起業。主な事業は個人・企業のメンタルヘルス支援。地方都市に活動拠点を置き、県北東部を中心に活動している。

Cさん：50代後半、女性。市の保健師として三十数年間活動後に起業。主な事業は障害者の生活介護・相談支援、放課後デイサービス。地方の小規模市に拠点を置き、市内を中心に活動している。

ストーリーの概要と関連要因

以下にBさんのストーリーの概要と「起業家マインド」関連要因を示す。

Bさんは小さい頃から「興味があることにのめり込む」性格であった。人の心に興味があり大学で心理学を学びたかったが、受験に失敗し地元を離れて看護学校へ進学した。「親の敷いたレール」で保健婦学校へ進み、地元の市の保健婦になった。市の地区組織活動には長い歴史があり、新人時代、担当地区の組織員に上手く「使ってもらい」、3年目にやりがいを感じられるようになった。健診や教室の方法等、国に先駆けた取り組みが「当たり前」の職場であった。30代前半に職能団体の研修で「ピタッとはまる」カウンセリングに出会い、自己啓発を続けた。40代後半に担当した中小企業との健康づくりプロジェクトを機に起業の道を歩んだ。自分自身が管理職になることに魅力を感じなかったのは、第一線の教師として現場にこだわった父親の影響がある。自分は「ラッセル車」で「現場で動いていたいし、動かしていきたい人」。いつも何が不足しているか、先を見越して考え、本当はどうなったらいいと思うか、住民に投げかけて一緒に考えた。失敗も経験したが「良い教訓と言ってもらえる環境」であった。

Bさんの「起業家マインド」は、性格や職業観に加えて、新任期から創造的な仕事を生む職場環境に身を置いて、地域に密着した活動を通して住民に育てられ、活動のふりかえりを大切にすることで育まれていた。

対象者間の共通性

看護職としての新任期に変化を生み出すことに肯定的な職場環境に身を置く、地域に密着した活動を通して住民に育てられる、対象コミュニティを意識した活動のふりかえりを大切にすることなどの経験を経て、起業によ

り住民に必要なサービスを創り出す転機を迎えていた。

研究者番号：90534800

(5) 保健師教育における「起業家マインド」育成プログラムの検討

開業保健師へのインタビュー調査で得られたストーリーは、保健師教育においてニーズからの施策化のナラティブ教材に活用できる可能性がある。特に看護キャリア初期のストーリーは現任教育における育成者支援プログラムへの活用が期待できる。今後は、教育関係者と意見交換を行い、プログラムをより具体化する必要がある。

今回のインタビュー調査では、全国で未だ少数の開業保健師を対象とし、活動分野の多様性を重視したため、結果的に対象者の性別・年代が偏るサンプリングとなった。このことが、対応した健康課題や用いた活動方法、現任教育体制の共通性を生んだ可能性がある。

引用文献

- 1) 押栗泰代, 河田志帆, 金城八重子, 畑下博世: 先駆的な保健師活動を考える 開業保健師の起業動機・起業準備・現在の活動. 日本地域看護学会誌, 51(1):16-24, 2012.
- 2) 西内義雄: レポート 第1回開業保健師の集い開催. 地域保健, 44(3):46-49, 2013.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

田中美延里, 岡田麻里: 開業保健師の起業家マインドが育まれるプロセス. 日本ルーラルナーシング学会第9回学術集会, 2014年10月4日, 岩手.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中美延里 (TANAKA, Minori)

愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授

研究者番号：00264903

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

<平成26年度>

岡田麻里 (OKADA, Mari)

県立広島大学・保健福祉学部・講師